工賃向上好事例セミナー

9月11日（金）に大阪赤十字会館にて、令和7年度優良取組表彰の好事例として、ささゆり作業所の35年間の取り組みについて講演をしました。当日は39事業所が参加され、そのほとんどがささゆり作業所より北の事業所が多く、開設してまだ日が浅い事業所が多くありました。

これまでの取り組みの中では、作業の確保から始まり、タオル業者との繋がり、ディーセントワークの取り組み、ご利用者の皆様が飽きないための取り組みを紹介しました。参加事業所の多くは、行事やクラブ活動に興味を持たれたようで、他の事業所では、そのような活動をしている余裕がないということと、作業の確保が十分ではないため、ご利用者の分配金をどう支払うかが課題になっている事業所もありました。また、十分な作業がないために、ご利用者が離れて行きなかなか定着しないという問題もありました。質問というよりかは、悩み相談のような空気になり、何とかしたくても手段がわからないといった様子でした。

自分はどうしたいのか、どうありたいのかといった明確な目標がなければ、躓いた時に次の方法が考えられなくなってしまいます。常日頃、目標を持つように指導を受けてきたので、目標を持つことの大切さを再認識しました。ご利用者を受け入れたからには責任があり、就労継続支援Ｂ型事業所は、ご利用者の皆様に働くことの喜びを感じてもらえるようにすることが我々支援員の役割だと考えています。

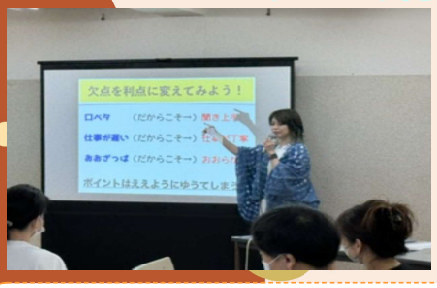
どのご利用者も初めは仕事が上手くできないところから始まり、上手くなりたいという気持ちで日々取り組み、上手くできるようになると、その人の自信になり、更に挑戦したいという向上心が湧いてきます。その一連の流れを繰り返すことにより、「自分は役に立っている」という経験が積み重なり、それが働きがいになり、働くことの喜びに繋がると思っています。

今回の表彰を受けて、ご利用者の皆様の反応は薄く、自身の頑張りが表彰に繋がったと捉えていない方が多く、「みんなの頑張りのおかげで表彰されたよ」と伝えても「頑張ってよかったわ」と意外とあっさりとした反応でした。また、ホームページに優良取組表彰について掲載したところ、「ホームページを見ました」というタオル業者の方からの注文が数件ありました。

ご利用者の皆様が自身の役割を理解し、やりがいを持って通所していただけることを嬉しく思っています。また、通所することを楽しみにされているご利用者もおられ、我々支援員は「ご利用者から好かれてなんぼ」の職業だと思っています。今後も皆様とともに、更なる成長を続け、工賃向上を目指して取り組んでいく所存です。

支援課　課長　川村　智子

人権研修～得意を活かす生き方～



9月は外部講師を招いての法人全体での人権研修を実施しました。今回の講師は漫画家、イラストレーターで活動されているオサ先生にお越しいただきました。今回は若年性関節リウマチを15歳で発病した当事者ご本人の気持ちや考えについての部分をお話いただきました。痛みと闘う毎日、友達には言えなかった高校時代、仕事ができない20代、心が壊れた30代と苦悩を経て辿り着いた現在では、できないことばかりに目を向けるのではなく、自分ができること、得意なことを活かすといった、ストレングスに着目できるようになったそうです。「できる、できない」ではなく自分が「やるか、やらないか」というだけで、何かを始めるのに遅すぎることはない、いつからでもできるんだと、希望のある内容でした。今回の研修を受け、今年度の人権研修のテーマである「ご利用者に寄り添う支援」に繋げていきたいと思います。

防犯訓練

8月12日、泉佐野警察署の方にお越しいただき、防犯訓練を実施しました。今回は、作業所内に不審者が侵入した場合を想定し、利用者の皆さまや職員の安全を守るための対応について学びました。

訓練では、まず「不審者」とはどのような人を指すのかについて説明を受けた後、不審者と適切な距離を取ることの大切さや、警察へ通報する際に伝える内容について確認しました。また、動画を見ながら「さすまた」の正しい使い方を学び、不審者を捕まえるためではなく、安全な距離を確保するために使用することを再確認しました。

今回の訓練で学んだことを職員間で共有し、万が一の際にも落ち着いて行動できるよう、今後も防犯意識を高めていきたいと思います。

支援課　児玉　和也

救命救急

9月14日に救命救急研修を行いました。

当日は消防署から2名の方に来ていただき、座学、実技を行い緊急時にはどのように行動をするのかを学びました。

座学では、救急車を呼んでから平均何分程で来るのかや、怪我による出血時の対応では、出血箇所の近辺を縛って止血すると言われていましたが、その方法は現在推奨されておらず、綺麗なガーゼで出血箇所を圧迫する方が望ましいと教えて頂き、新たな学びとなりました。

実技では、倒れている人がいる場合の対応について、模型を使い心肺蘇生を実施し、また、AEDの使用法を教えて頂きました。

今回研修を受けて救急車到着までに、どれだけ継続して心肺蘇生を行うかで、脳や循環器へのダメージを回避できるため、緊急時に対応できるように備えが必要であることを改めて実感しました。

今年度は基礎コースの研修であったため、次年度は実践コースの研修を受け、更なる学びに繋げていきたいと思います。

支援課　野口　侑来

職員紹介

こんにちは！
大井憂也です！
食べることが大好きです！
よろしくお願いいたします！

この度皆様と一緒に働くことになりました竹原志乃布です。仕事を通じて毎日楽しく、充実した日々を過ごせるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。